

進行卵巣癌に対する針生検の臨床的意義：HRD 検査を含む後方視的検討

◆研究の目的と概要◆

当院では、超音波ガイド下針生検の診断的有用性と安全性を審査腹腔鏡下生検と比較して、分子検査および予後への影響を調べています。本研究では、超音波ガイド下針生検を用いた治療戦略の確立を目指し、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2021年1月から2023年12月の間に当院で進行卵巣癌、卵管癌、原発性腹膜癌と診断された方。

FIGO分類ⅢB期～ⅣB期

術前化学療法(neoadjuvant chemotherapy: NAC)後に腫瘍減量手術(interval debulking surgery: IDS)を施行された方。

診断目的に針生検または審査腹腔鏡下生検を施行された方。

◆研究に使用される情報・試料◆

年齢、進行期(FIGO分類)、原発部位、組織型、生検方法(超音波ガイド下針生検／審査腹腔鏡下生検)、腫瘍含有割合(%)、腫瘍面積(mm^2)、HRD検査実施可否および結果、NAC開始までの日数、化学療法レジメン・コース数、IDS時の手術完遂度(RO/R1)、手術時間、出血量、合併症、無再発生存期間、全生存期間

◆試料・情報の研究利用開始日◆

2025年12月22日以降

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録を利用します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

産婦人科 研究責任者 黒田亮介

E-mail : kenkyu★kchnet.or.jp

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難であるとの理由が認められ、倫理的観点及び科学的観点から実施についての承認、また当院院長の許可が得られています。

※ 【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- ・研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
(他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。)
- ・研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- ・研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- ・研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明